
会報

日本福音ルーテル東京池袋教会

〒171-0014 豊島区池袋3-7-1

☎3984-3853 ikejelc@a.toshima.ne.jp

<http://www.jelc-ikebukuro.org/>

2017-3

発行日 2017年 3月26日

牧師 青田 勇

ドイツの児童文学者でE. ケストナーという人がいます。40年ほど前に亡くなっていますが、ケストナーは父方を通じてユダヤ人の血を引いていましたが、「自分はドイツ人である」という誇りから、亡命を拒み続けて偽名で脚本などを書き続け、スイスの出版社から児童文学書を出版し、暗いナチス時代にあって子供たちに明るい未来を少年少女のために提供した人です。

そのケストナーの作品に『エミールと探偵たち』という本があります。実業学校に通う母子家庭（大工だった父は幼少の頃に病死）の少年・エミールは、休暇を利用してベルリンのおばあちゃんのところに汽車に乗って行きます。彼は乗っていた汽車の中で居眠りしている間に、お母さんからもらった大切なお金、140 マルクを相席の男に盗まれてしまいます。

その汽車の中でエミールはお金がないことを知ったときに泣くのです。そのエミールの涙は何でしょう。その時の少年エミールの気持ちをケストナーはこう書いています。

「エミールはお金のために泣いたのだ。それから、お母さんのために泣いたのだ。これがわからない人間は、いくら強くても、なんにもならない。お母さんは、この140 マルクをおばあさんのためにためて、ぼくをベルリンへ旅行させようと、何ヶ月も何ヶ月もあくせく働いたのだということを、エミールは知っていた。それなのに、むすこは汽車にこしかけるがはやいか、さっそくすみによりかかって、グーグーねてしまい、ばかな夢を見て、泥棒にお金をぬすませてしまったのだ。どうして泣かずにはいられよう」。

エミールの涙は、お金が失われたそのものよりも、せつかく汗水ながして自分のために貯めてくれたお金、つまり母が自分をどれほど大切に思っているかを知り、

その大事なお金を喪失してしまったことを悔いる思い、それが彼の涙でした。愛する母への愛の涙です。私たちは人生の色々な時に、密かに涙を流します。

せつかく作った輪投げがこわれてしまったからと言って泣くこともあるでしょう。また、少し大きくなってから、友だちを失ったと言って泣くこともあるでしょう。

人生で大切なのは、何で悲しむかではありません。どんなにして悲しむかです。もちろん、それはいつでも、ただ泣くような人であってはなりません。しっかりしていなければならない時に、涙もろくなってしまうようであってはならないと思います。ですから、大切なのは本当の悲しむ時に、心が正直になり、素直になり、そこから前に向けて歩むことです。それが本当の涙となります。

聖書の中でも、イエス・キリストが悲しみ、涙を流しています。それは、ヨハネ福音書 11 章 17 節での「ラザロの死」の個所です。マルタとマリアからその兄弟ラザロの死を知らされたイエス・キリストは、その死を見たときに涙を流されています。

「イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、言われた。『どこに葬ったのか。』彼らは、『主よ、来て、御覧ください』と言った。イエスは涙を流された。」(33 節～35 節)

涙は「ダクローン」というギリシャ語が使われています。これは聖書ではわずかに 10 回だけ使われています。腸の底からの悲しみ、苦しみを伴った痛みの涙です。

イエス・キリストは、悲しむマルタとマリアの心に共感し、彼女らの苦しみを深く察し、痛みの愛により悲しまれたのです。

「痛み、悲しむ」神の愛です。苦しみ、悲しみ、涙流す時、私たちは一人ではありません。なぜなら、その涙で苦しみと悲しみは自分のためでなく、愛する他者のための苦しみ、悲しみであるからです。そして、その悲しみと苦しみの中でこそ、キリストの命に生かされることになるのです。なぜなら、苦難のキリストこそ、私たちに明日に生きる命を授けてくれるからです。悲しみの中でも辛い過去のことにとだわるのではなく、むしろ、しっかりと明日の希望に向かって生きて行くこと、これがキリストにおける信仰です。

心から感謝（今井兄を偲んで）

坂根 耀子

「お早う、元気でしたか」「気をつけて帰りなよ」

今井哲男兄の穏やかな語りかけに勇気をもらったのは、私だけではないと思います。転籍してしばらくは心細く、心が折れてしまいそうな時もありました。

今井兄の言葉に励まされて、枝に繋がる者としての信頼を覚え、心を開いて、教会生活を楽しむことが出来るようになりました。

驕る(おごる)ことなく、謙虚で、冷静に、温かく、寛容さをもった方でした。常に教会の全体に心を配られていらっしやいました。

婦人会の親睦会にカメラ持参で参加して下さい、沢山の思い出を残して下さいました。2008年河口湖での一泊二日の修養会の帰り、今井兄の車に乗せていただいた井澤和子姉と私は、後部座席でおしゃべりを、今井ご夫妻は笑って聞いて下さって楽しいドライブでした。

突然のこの世のお別れに悲しみがこみあげてきます。
教会の歴史を支えてこられた大きな、大きな存在でした。心から感謝を捧げます。
神様の豊かなお恵みが奥様をお守り下さるよう祈ります。 在主

今井兄を偲んで

三好泰博

時が過ぎるのは早いもので、今井兄が昨年10月に亡くなられてからすでに5か月が過ぎました。私たちにとって本当に突然の知らせでした。亡くなられる数か月前から体調をくずされ、礼拝を休まれておりましたが、当初は状況が分からず、すぐ回復されるのではと思っておりました。然し、礼拝を休まれるのが長くなり、奥様に伺うと、一時は退院され、ご自宅でお元気になられる兆候なども伺っておりました。

安心していたところに突然の訃報をいただきました。長い年月親しくして頂き、共に信仰の歩みを続けておりましたので、驚きと共にその喪失感も大きいものでした。色々大事な働きをされていたので、失ってみて初めて今井兄が池袋教会にとって、どれほど大きく、掛け替えのない存在であったかを改めて思い知れされました。

今井兄は私より2歳年上で、略歴を拝見しますと、洗礼を受けたのは1957年10月ということでした。私は1959年12月に、2年遅れで洗礼を受け、二人とも二十歳の時でした。当時、今井兄は既に学校を卒業されていたので、どちらかという学生中心の青年会は卒業して、森浩一兄など先輩方のグループに属されていたようでした。一方、私はまだ在学中で坂上姉、山口姉、時には大岡山教会、日吉教会の青年たちと青年会活動を共にしておりました。

また、私は就職3年近く経ってから、二度にわたる海外での生活が8年近く続い

たこともあって、当時は交わりの機会があまりなかったように思います。しかし、1970年に私がドイツのケルンに派遣されていた時に、池袋教会では、第1回のフィンランドの教会訪問が計画され、今井さんはそれに参加してフィンランドを訪問されました。その旅行のお帰りにお一人でドイツに寄られました。ケルンには大聖堂があり、ちょうどローマ時代のモザイクのフロアーを発掘中で、それを見物したり、街中を案内したり、短い機会でしたが楽しい時を共に過ごせたことを思い出します。

その後1976年になり37歳の時に、欧州での勤務を終えてイギリスから帰国した時から教会生活を一緒にするようになりました。以来今日まで本当に長い間、よい信仰の交わりを持たせて頂きました。また、役員を若い時から長きにわたって努められ、役員を退いてからも教会に対して献身的に奉仕される姿には強く心を打たれておりました。感謝の気持ちで一杯です。

今井兄の教会生活は池袋教会のみならず、仕事の関係から他の多くの教会とも深い関わりを持たれ、よく面倒を看ておられたようです。池袋教会では、特に旧教会堂から新たな教会堂への建て替え、牧師館の建て替え、その他施設関係の維持管理などで尽力され、すべては今井兄抜きでは考えられませんでした。現在の会堂は、三度目の会堂で、1985年に完成しました。完成への道のりを見ても、当時の役員会の努力もさることながら、今井兄の働きに負うところが大です。

1980年頃から現会堂の建築計画が牛丸牧師を中心に本格的に始動しました。当時の建築委員には、村井資長氏、田中昇氏、岡安大仁氏、江崎勉氏、齋藤昭次氏、帰山嘉郎氏、今井哲男氏など7人の方々が役員を兼務しながらその実現に向けて努力されておりました。中でも今井兄は牧師と共に教会を代表して、建築家の坂上氏と、礼拝のあり方に則った聖壇の配置や様式、内装面の折衝をしておりました。音響効果の良い教会を建てることも一つの目的で、今ある会堂が与えられました。

会堂が経ってから30年経過した今なお美しい姿を保っていられるのも、今井兄の緻密な長期修繕計画に沿って、今まで滞りなく実施されてきた維持管理のお蔭です。その長期計画の趣旨は今後のメンテナンス計画にも引き継がれ、継続して行われるものと思われまます。

1994年に立山牧師が当教会に就任した翌年から、暫く間が空いていた一泊修養会が復活し、その後、2006年まで11年間続けられました。毎年9月第一週の土曜～日曜、乃至は、日曜～月曜に行われておりました。初年度、次年度の幹事

は私が担当いたしました。今井兄には例によって相談に乗ってもらい、色々アドバイスを頂きました。特に、会場探しでは、初年度、次年度とも今井兄の故郷に近い長野県原町のペンション、ケイト、並びに、ムジカを紹介して頂き、毎回25名前後の出席者と共に、実り多い修養会を開くことができました。山々に囲まれた美しい自然の中で、昼間は立山牧師を中心にイエス・キリストについて学び、証し、信仰について語り合いました。また夜のセッション終了後は、参加者全員で一杯やりながら、日頃胸に思っていることを語り合い、普段教会では味わえない交わりを持つことができました。いつまでも忘れることができない懐かしい思い出となっております。

今井さん、長い間池袋教会を支え、導き、指導して下さいありがとうございました。

岡安大仁兄を偲んで

久保コト

岡安大仁先生は日大病院の呼吸器科の教授でいらっしゃいました。池袋教会では牛丸牧師を始め教会員の方々の健康相談を受けて下さり、多くの方々を治療へ結び付けて下さいました。

2005年ルーテル教会百年記念事業熊本大会の時に、参加会員81名、参加教会61ヶ所を得て「医療と宗教の会」を立ち上げられ、毎年一回の医療セミナーを開催指導されました。この会は現在、武蔵野教会が引き継いで下さっています。

日大病院退職後は聖路加病院の日野原先生と共に「ピースハウスホスピス」にて終末期医療に尽くされました。

昨年12月に病没されましたが、教会員始め病む人々のために力をつくされた、お優しい笑顔が思い出されます。神様のみもとにて安らかに居られることと思ひ、感謝の思いでなつかしくお祈り致します

岡安先生を偲んで

江崎あみ

岡安先生がお亡くなりになり、本当に悲しいです。寂しいです。グレーのスーツを、おめしになっていらして、いつも上品に、物静かに、お過ごしのお様子を思い出されます。

なき主人とも、よく気があって、二人の話は尽きないようでした。几帳面な先生

で、私の知人が日大にいました時、白衣の袖口の紐がほどけていて、注意されたことがあるとっていました。

礼拝の帰り道、皆様とご一緒にお昼をいただく時がよくありました。そんな時、先生のお話が聞けて嬉しいひと時でした。

先生、よい交わりをいただきまして、本当に、ありがとうございました。

平 寿代さんとの思い出

坂上靖子

私は今手元にある平さんから頂いたカードや絵葉書、そしてメールの交信記録を見直しながら、様々なことを思い巡らしています。直接お話をする機会は少なく、内容も短いものでしたが、とても印象深い方でした。最初にお話したのはフランスに行かれる直前の礼拝後でした。「いつもって訳にはいかないけれど、時々あなたのことを心に留めて祈るわね」と声をかけた私に、深い笑みを込めて「ありがとうございます」と丁寧に応えて下さった平さんは、律義で落ち着いた方でした。

数年が経ち、オランダから里帰りされた夏に池袋教会に立ち寄られ、故郷奄美大島名産の黒砂糖をわざわざ届けて下さったほど、教会思いの人でした。癌の告知を受けられてからの平さんは「信仰の人」そのものでした。教会の皆様が病気を覚え祈って下さっていることが、力になり平安が与えられていると立山先生に、感謝の気持ちを託されるなど、謙虚で真心を持った方でした。

ある年、教会から送られていた「礼拝テープ」で聖書朗読をしていた私の声が懐かしいとメールをいただき、共に礼拝を守っている実感を味わい、喜び合いました。「会報」も限なく読まれ、遠くにいても誰よりも教会や教会員のことを知っていたのではないのでしょうか。教会のシンボルだった染井吉野桜が切られてしまったことを、とても残念がっていらした、心優しい方でした。

まだまだ色々なことが浮かんできますが、今年のクリスマス祝会のときに、幸運にも4人の方々がプレゼントされた、手袋のことを最後に書かせていただきたいと思います。その手袋は今年の2月に平さんから「身体が動く今、送らせて下さい」「10月の教会バザーに間に合うように1年計画で編みました」と書かれたカードが添えられて届きました。手触りの良い素敵な配色のスーパーウールで編まれた暖

かい4対の手袋を、どうしたら帰天された平さんの切なる思いに沿えるのかと話し合いました。悩んだ結果、教会員が公平に共有する方法として、祝会出席者の中で手袋が欲しいと思われた人たちが『ジャンケン』をし、勝ち残った4人にクリスマスプレゼントすることでした。ジャンケン戦は予想以上に盛り上がり『信徒が主にあって一つである』ことが楽しいことだと教えて下さったようにも思われました。その後、『平さんの手袋』は編物上手の婦人達によって似たものが編まれ、多くの人たちの手を温めてくれています。

平さんはいつも道端の草花やお庭の花々のことを愛でながら近況を知らせて下さいました。そして文末には必ず、神様の恵みにあずかっていること、どんな時にも傍らでイエス様が支えていて下さっていること、時を選び、良きことのみを備えて下さっている神様を信じて今日も過ごします、と結んでいました。そのような平さんを通して「信徒の交わり」が与えられ、お祈りを通して互いに慰め合い、励まし会えたことを私は心から神様に感謝しています。

母に会いに行く気持ちで礼拝に

根本洋美

昨年7月3日ここ池袋教会で、母、根本政子の葬儀をさせていただき、誠にありがとうございました。青田牧師には母の入院中にお見舞い、亡くなった日は病院でお祈りをさせていただきました。納骨日にも寄り添っていただき大変お世話になりました。また教会員の皆様には、日々の祈りに加えていただき心強く思っていました。北原姉の励まし電話や、珠川姉には週報送付等感謝申し上げます。

母は亡くなる3年前より、私の近所にある施設で穏やかに過ごしていました。移動はほぼ車椅子でしたが、頭はハッキリしていました。その頃、特別の覚悟もない様子で母は「神様がお迎えに来たら迷わず天国に行くから、あなたは何も心配することはないのよ。トットコ、トットコ、速いよ〜。」と陽気に言っていました。いまでは、私の母に対する後悔に「とりこし苦労よ」と言われているような気がします。

母は平成元年に千葉に引っ越すまで、池袋教会に通っていました。弱いようで強かった母は、信仰が支えであり、神様への祈りで母らしく生かされてきたのだと感じます。それを母自身も日々感謝していました。「祈りは強いよ。お祈りしなさい。」「なんでも自然が一番ね。ありがたい。」と言って過ごしていました。

今年もイースターが近くなって、教会に母と通った、幼稚園の頃を思い出すと心

が和みます。カラフルな卵を持ち帰ると、食紅が溶けて幼い手が染まり「お化けの手」になりました。母が「あら～」と笑っているのが面白くて、私もつられて楽しくなりました。母が亡くなり、私はこれまで以上イースターやペンテコステを「救い」と思えるようになりました。辛い時、人生が最悪と思える時、母が病床で「そんな時もあるけど。希望はあるのよ。」といった姿を思い出すからです。

根本政子さんのこと

今井早苗

もう30年以上も前のことになるでしょうか、牛丸牧師の頃に教会前の道で時々小柄なご婦人を追い越しました。私どもは車の中でしたのでお声をかけることはできませんでしたが、その人が根本政子さんでした。聖書を包んだ荷物をかかえていつも静かでおだやかな人でした。私が結婚して、池袋教会の会員になったのは昭和38年の秋でしたが、そのあと20年近くは子育てとPTAの活動であまり礼拝に出席でない時があった為か、根本さんとはあまりお話した記憶はないのですが、いつも静かに微笑んでおられたように思います。いつの頃からかお見かけしなくなり、千葉の方に引越しされたことを知りました。車で成田に行った時など、高速道路で八千代市を目にし、主人と「根本さんはここに住んでいるのよね」と話しました。

洋美さんが小学校の先生になり教会学校の手伝いをするようになって根本政子さんの娘さんだと気がつきました。政子さんが入院してからは洋美さんが本当に良くお母様の看病をしておられる様子をお聞きし、お二人のことをお祈りしていました。

政子さんはこの世の痛み、苦しみから解放され神様の御許で神様と共に洋美さんを見守って下さいます。洋美さんとご家族の上に神様のお恵みが豊かにありますように祈ります。

総 会 報 告

難波賀代子（前書記）

2月5日（日）礼拝後、教会総会が開催されました（出席者28名・委任状56名、合計84名となり、現住会員112名の過半数）。昨年度の牧師報告、代議員報告、各会の活動報告がなされ、承認されました。

2017年度の役員選挙をはさみ、議案審議が行われ、1～5全ての議案が承認、

可決されました。

1号議案：2017年度主題聖句、宣教・教育・奉仕の基本方針

2号議案：2017年度主な教会行事予定

3号議案：牧師人事の件

4号議案：建物（会堂・牧師館・オルガン）維持献金新設の件

5号議案：2016年度決算、および2017年度予算案

任期を終えられた3名（三好 薫姉、難波靖雄兄、難波賀代子姉）に代わり、新しく*3名の方々が選出され、2017年度の役員体制は下記の通り決定しました。

代議員： 石黒武生兄・ 齋藤政人兄

書 記： 池谷孝雄兄・*森川正明兄

会 計：*前田晴代姉・*川口文子姉（1年）

婦人会活動報告

山口悠子

今年度の活動は2月19日（日）礼拝後に行われた総会から始まりました。

20名の出席のもと、今年度の活動について、以下のことが話合われました。

1. 世話人代表： 坂上靖子 副代表 ：板倉三恵子・山口悠子

会 計： 今井早苗

聖 書 会： 北原則子・坂根耀子

食 事 係： 石黒優子 食事会計：難波賀代子

文書担当 ： 谷口幸子 （敬称略）

2. 例会は第3日曜日の礼拝後に開催、教会行事と重なったときは休会とします。

3. 聖書会は原則として第3火曜日11時～12時に開かれます。

4. 野外親睦会は5月16日（火）に催行します。

5. ミニバザーは毎年7月、12月各第1週に予定していますが、今年度の7月第1週は信徒会に重なるため6月18日（日）に催行します。

6. 昨年度から、教会員有志による手作りカードの製作が始まり、好評を博していますが、その売上金は、教会への目的献金とする提案が行われ、全員の賛同が得られました。カードは、イースター、クリスマス、慶弔にふさわしいもの、季節感のあるもの、など色々取り揃えております。皆様、どうぞお手

にとってご覧くださいませ。(担当：板倉三恵子姉)

7. 世界祈祷日が3月3日(金)日本基督教団富士見町教会で行われ、池袋教会から2名の方が出席しました。テーマは「フィリピンの女性と子供を覚えて」

教会の主な集会・行事予定

- ◆ 3月30日(金) 正午、 故岡安大仁兄 納骨式 狭山湖畔霊園
- ◆ 4月 9日(日) 礼拝後、 定例役員会
- ◆ 4月14日(金)午後 3時 受苦日礼拝
- ◆ 4月16日(日)午前10時半 イースター礼拝
- ◆ 4月18日(火)午前11時 婦人の聖書会 ルカ福音書
- ◆ 4月23日(日)午後 2時半 多摩霊園 墓前礼拝
- ◆ 4月30日(日) 礼拝後、 婦人会 聖研・ローマ書
- ◆ 5月10日(水)午後 2時 聖書に学ぶ会 ヨハネ福音書
- ◆ 5月14日(日) 礼拝後、 定例役員会
- ◆ 5月16日(火) 婦人会野外親睦会
- ◆ 5月21日(日) 礼拝後、 婦人会 聖研・ローマ書
- ◆ 5月28日(日) 礼拝後、 教会大掃除
- ◆ 6月 4日(日)午前10時半 聖霊降臨日礼拝
- ◆ 6月11日(日) 礼拝後、 定例役員会
- ◆ 6月18日(日) 礼拝後、 婦人会 聖研・ローマ書
- ◆ 6月20日(火)午前11時 婦人の聖書会 ルカ福音書